

除草剤

クロルフタリム水和剤

ダイヤモンド®水和剤

有効成分：クロルフタリム・・・50.0%

農林水産省登録 第14638号

性状：類白色水和性粉末 45 μm以下

毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

有効年限：4年

包装：500g × 20

ダイヤモンド®は日本農薬(株)の登録商標です。

特長

- 広範囲の1年生雑草を防除し、イネ科雑草に高い効果を示します。
- 残効性に優れた、抑草期間の長い土壌処理型除草剤です。
- 本剤は土壌中で比較的安定するので、各種土壌に適用できます。
- 土壌中の移行性が小さく、土壌表層に薬剤処理層を作るので、発芽後幼芽部が接触し褐変枯死します。

適用雑草名および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	クロルフタリムを 含む農薬の総使用 回数
			薬量	希釈水量			
さく	一年生 雑草	定植前(雑草発生前)	400～ 800g	100ℓ	1回	全面土壌 散布	1回
すぎ(床替床) ひのき(床替床) あかまつ(床替床) くろまつ(床替床) からまつ(床替床)		雑草発生前	400～ 600g	150ℓ	2回以内		2回以内
つつじ類				100ℓ	1回	畦間土壌散布	1回
たばこ (折衷マルチ栽培)		畦立直後 但し、植付10日前まで 前年秋季 施肥畦立時	200g	100～ 200ℓ		畦面土壌 散布	
日本芝 (こうらいしば)		春季雑草発生前	400～ 600g	300ℓ	2回以内	全面土壌 散布	2回以内
西洋芝 (ベントグラス)	コケ類	秋冬季芝生育期 (コケ類生育期)	200～ 600g	200～ 300ℓ			

使用上の注意事項

- アルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- 散布液調製後は、そのまま放置せずできるだけ速やかに散布してください。
- 本剤は雑草発生前の処理の効果は高いですが、既発生の雑草には効果が劣るので雑草発生前に全面にむらなく散布してください。
- イネ科雑草に比べ、キク科などの広葉雑草に対しては効果がやや劣るので、広葉雑草の優占する所では所定範囲の多めの薬量で使用してください。
- 散布液量が少ないと効果が不均一になる場合もあるので、所定の散布薬量に希釈して使用してください。
- 芝生中及び周辺の植物にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。
- 春期に日本芝に使用する場合、萌芽した新芽には、葉先褐変などの薬害を生ずることがあります。芝の萌芽前に散布してください。
- 秋期に日本芝に使用する場合、発芽後のスズメノカタビラには効果が劣るので、スズメノカタビラの発生前に散布してください。とくに高温時に薬害が出やすくなるので注意してください。
- ターフ形成前の芝生には使用をさけてください。
- たばこに使用する場合、植付時、処理土壌がたばこの茎葉に接触しないように注意してください。
- たばこのトンネル栽培、改良畦面栽培では使用しないでください。
- 薬液調製容器や散布器具は使用後十分水洗いしてください。
- 水源地、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意してください。

- 適用作物群に属する作物、又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。尚、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 散布の際は、マスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。

ダイヤモンド水和剤技術情報

ベントグラス内コケ類に対する本剤の使用時期と薬量

コケと薬剤散布適期		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コケの発生長														
ダイヤモンド 水和剤	0.2g/m ²													
	0.3g/m ²													
	0.4g/m ²													
	0.5g/m ²													
	0.6g/m ²													

※散布は、原則としてスプレーヤー等の均一散布できるものをご使用ください。

※本剤は連用散布のご使用はお控えください。冬場の1回散布で十分な効果を発揮します。

西洋芝の場合、右表の網掛け部分の範囲でお使い下さい。



ダイアメート水和剤技術情報

ダイアメート水和剤技術情報

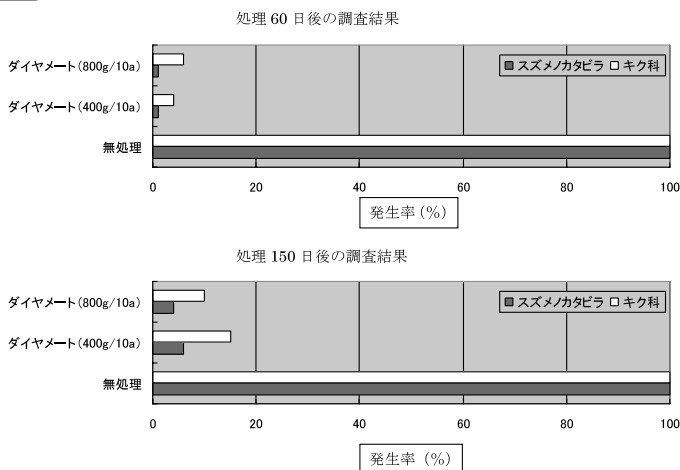
主な適用雑草一覧

スズメノカタビラ、メヒシバ、オヒシバ、イヌビエ、カヤツリグサ科、ハキダメギク、イヌホオズキ、ハルタデ、サナエタデ、エノキグサ、アカザ、トウダイグサ、ナスナ、グンバイナスナ、オオバコ、スベリヒユ、イヌビユ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、その他一年生雑草

ダイアメート水和剤の作用性

- 光要求型除草剤で、光のある条件下のみで効果が発現します。
- 接触型除草剤なので、土壌表層に形成された薬剤処理層を雑草の幼芽が通過する際、薬剤に接触し褐変枯死します。
- 土壌中の移動性がきわめて小さく、土壌表層に薬剤処理層を作りやすい。
- 根部からの吸収は小さく、植物体はほとんど影響を受けません。

適用性試験



試験場所：西日本グリーン研究所
対象雑草：スズメノカタビラ、(クキ科)：オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、チチコグサ、オニノゲシ
供試芝草：コウライシバ(密張造成後、ゴルフ場のグリーンと同様の管理状態)造成2年後の芝。
土壌条件：砂壤土で腐植をやや含む。pH 4.7。
処理日：昭和50年10月22日(雑草発生前)
調査日：昭和50年12月22日(60日後)
昭和51年3月20日(150日後)